



蒲生高校だより

第7巻 第3号 (通巻21号)

発行日 平成21年3月25日

鹿児島県立蒲生高等学校

当たり前のことを 当たり前にできる人間に

教頭 佐野由美子



暖冬と言われながらも2009年を迎え、気候の激変に戸惑っています。そのような気候に一喜一憂しながら、2月に体育館の耐震工事が済み、3年間に及び改修工事を無事終了いたしました。

部活動では、ハンドボール部全国

総体ベスト8、ワープロ部九州地区大会速読の部個人正確受賞等成果をあげ、学校を大いに盛り上げてくれました。3年生の進路については、国立大学の筑波大学合格をはじめ、それぞれが希望している上級学校に合格しています。また、就職では、この社会情勢

の厳しい中善戦し、ほとんどの生徒が就職先を決定しました。生徒が、よく健闘した結果だと思えます。

また、3年連続、鹿児島県学校保健優良校に選ばれ、来年度から3年間モデルスクールとして認定されました。生徒たちに感謝の心が湧けば自然に奉仕の精神が生まれるものです。自ら学ぶ環境維持に取り組むとともに、「明朗・誠実」の校訓のもと、当たり前のことが当たり前にできる蒲生高校生の前進を願いつつ、ここに本年度後半の生徒たちの様子を紹介します。



卒業式 挙行

3月2日(月)桃の花香る中、128名が本校を巣立っていきました。蒲生高校卒業生として、自分に誇りを持ち、試験を乗り越えていって欲しいと思います。



修学旅行記

1月27日(火)～1月30日(金)

瀬尾 重俊

3泊4日の日程で、関西方面へ修学旅行を実施しました。

伊丹空港からバスで京都へ向かい、最初の目的地清水寺へたどり着きました。バスガイドさんの案内の後、各自思い思いの場所を見学しました。その後金閣寺へ。建物の美しさに「おお！」という感嘆の声。賑やかに写真撮影を行いました。

2日目からは、箱館山スキー場でのスキー研修でした。思うように体を動かさず、なかなか立ち上がる事ができませんでした。立ち上がった後も今度は雪の上のスキーが勝手に動き出し、体を支えるのに一苦労し

ました。ですが、翌日になると、生徒達は昨日の苦い体験は忘れたかのように、斜面を気持ち良くすべっていました。スキーの楽しさが分かり始めた頃に研修は終了、スキー場を後にしました。この日は夕食後、舞妓さんとの交流がありました。踊りを鑑賞後、質問、写真撮影と短い時間でしたが、貴重な体験ができました。

最終日は大阪のユニバーサルスタジオオジャパンへ。生徒はみな、非日常の世界を楽しんでいました。そして、伊丹空港から鹿児島空港に到着、旅行を名残惜しみながら学校に到着しました。



今回の旅行で、多くの友人と触れ合い、信頼関係を築き上げられたのでは、と思います。

夢は叶う

進路指導部主任 上園 正彦

夢(目的)は叶うものでなければなりません。ただし叶えるには幾多の困難や挫折を味わうことになります。時として先が見えず、その苦しさ負けずまい、夢を断念する人も多いものです。しかしそれを乗り越えようとする「勇気」を持っている限り、進み続け必ず夢は叶います。何事も信念を持って本気になって取り組んでいれば勇氣は出てくるものです。当然そういう人の周りには強力な協力者が現れ、相乗効果として実現へ向かっていくものです。

今年の3年生は混沌とした社会情勢の中、就職に関しては97%が内定(県内高校生就職率86%)、進学では、久しぶりの国立大学(筑波大学)合格を筆頭に、100%の生徒が合格し、社会へ巣立っていきました。ここに至るまでには早い段階からの進路意識と3年間におけるたゆまぬ努力、そして周囲の協力があつたことを忘れてはなりません。

平成20年度もまもなく終わりを告げ、新しい学年へと移行します。現1年生は中堅役として学校の主力になる2年生へ、現2年生は決断と勝負の3年生へととなります。君たちも夢を叶えるために幾多の困難や挫折を味わってもらいたい。しかし決して「勇気」を忘れてはなりません。

先輩による 進路講話

中村 俊郎



2月3日(火)、本校体育館で1・2年生を対象に「先輩による進路講話」を開催しました。就職の講話では、松林由香理さん(普3-1)、朝隈友紀さん(情3-2)に話をしてもらいました。2人とも「1年から自分の目標を持ち、部活と勉強を両立させ、日頃から努力し学校生活を大切に過

ごすことである。」と訴えました。

また進学の川俣ゆかりさん(普3-2)、松原憲子さん(情3-2)は「必ず一つ頑張れることを早くから見つけて、強い意志、気持ちを持って努力することである。それが自分の将来につながる。」と熱弁を振

っていました。講話の中で、ひしひしと伝わってきたものは「苦悩と努力」でした。

「大変共感し、元気をもらいました。先輩たちを手本としてこれからの学校生活を過ごしたい。」という感想が多く寄せられ、後輩達へのいい刺激になったのではないのでしょうか。

実り多かつた1日!

1年職場・学校訪問

脇本 正

今年度も、職場・学校訪問を2月5日に実施しました。1年生の出来るだけ早い時期から、進路意識を高めて欲しいという思いで始まり、今年は7回日になります。

当日は、4コースに分かれて、バスで訪問しました。訪問先は、鹿児島医療技術専門学校・鹿児島ハイテク専門学校・鹿児島動物専門学校(Aコース)、タラビューティ専門学校・今村学園ライセンスアカデミー・鹿児島レディスカレッジ・鹿児島県美容専門学校(Bコース)、城西プロフェッショナルカレッジ・鹿児島情報ビジネス専門学校・鹿児島医療福祉専門学校(Cコース)、福山醸造株式会社・第一工業大学・第一幼児教育短期大学・白金酒造株式会社(Dコース)の12の上級学校と、2つの企業(製造工場)です。

それぞれの上級学校では、充実した設備を見学し、カリキュラム等の説明を受けたり、実習を体験したところもありました。また、各企業では、現場で働く方々の熱い思いを肌で感じ、働くことの意義や責任を身をもって感じさせられました。多忙な業務の中、本校生のために、親身になって応対して下さいました訪問先の方々には、心から感謝申し上げます。



女子3年ぶり

大会タイ記録!!

校内ロードレース大会

2月10日(火)、真冬の蒲生野で男子は10km 女子は5km走りました。

1ヶ月前から体育の授業時に少しずつ距離を延ばしながら練習し、それぞれが自分の限界に挑戦しました。女子の部では、岩元美穂さん(普1-1)が19分43秒の

大会タイ記録で優勝し、皆の拍手を浴びました。また何よりも制限時間内にゴールできたこと、見学者が少なかったことも特筆すべき内容でした。

学級対抗 (男女総合)	優勝	普1-2
	準優勝	情2-2
	第3位	情2-1
男子個人	優勝	上迫田雄太(情2-1)
	準優勝	畠中 一昭(情1-2)
	第3位	竹島 寛二(普2-1)
女子個人	優勝	岩元 美穂(普1-1)
	準優勝	小倉 千聖(普2-2)
	第3位	桧嶺麻衣子(情2-1)



今回の訪問で、1年生一人ひとり、自分の進路について大きな刺激を受けたと思います。皆、いずれ何らかの職業に携わることになります。今回の体験を忘れず、今後も様々な機会を捉え、自分の将来について真剣に考え、学ぼうとする姿勢を常に持ち続け、夢の実現につないでいって欲しいと思います。

感想文の紹介

- ▶ 今回の訪問を通じて、できるだけ資格をたくさん取り、ビジネスマナーを身につけることがとても大切だということが分かった。高校生活の中でも努力を欠かさず、将来自分の夢を叶えられるようにしたい。
- ▶ それぞれの職場の人が、ものすごく熱く仕事のことを話してくださった。皆に共通していたことは、目が輝いていることと、語りに満ちた顔

だった。後悔をしないように、今のうちに道をつくっておこう。叶えよう、夢。



生徒会ボランティア活動

学年末と斉最終日の2月20日(金)午後、生徒会・部活動生を中心に、生徒・職員合わせて145名が参加し、蒲生八幡神社から学校周辺の道路等の清掃や施設訪問を行いました。

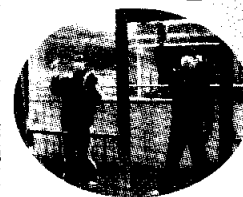
5つのルートに分かれて、それぞれの活動場所で精一杯作業を行いました。

風が強く気温も低い中でしたが、神社の境内を掃いたり、道路のゴミを拾ったりしました。

「ろづけん大綱」では、窓拭きやベッドの手すりなどの拭き掃除をしました。施設の方々も笑顔で迎えてくださり、挨拶や言葉を交わすなどの交流もできて、大変良い経験になりました。

地域の一員として、若者としての役割を果たそうという気持ちを持って活動することができたと思います。

今後も生徒会を中心に、様々な形でのボランティア活動を計画し、地域社会に貢献していこうと考えています。



性教育推進委員会 テーマは「人として」

本校の性教育は、各教科での性教育に加え、性教育推進委員会が中心となって学級活動の中で取り組んでいます。

	1 学 年	2 学 年	3 学 年
1 学期	7月夏休み前に啓発資料『「こんなはずじゃなかった、夏休み」にしないために!!』を発行		
2 学期	保健士による科別合同LHR「脳の発達と男女の性差」	産婦人科医による学年合同LHR「10代の妊娠・中絶・STDからみえること」	各担任による統一LHR「情報通信の氾濫と自己の生き方～出会い系サイトには危険がいっぱい～」
3 学期	各担任による統一LHR「高校生として望ましい男女のあり方」	各担任による統一LHR「デートDV」	養護教諭による学年合同LHR「卒業前の性教育講話」

性教育は、性をテーマにした人間の生き方を考える教育であり、生徒を取り巻く社会環境の変化を考えれば、学校現場としても避けて通れない問題です。

- あなたは、「性」のことをさわやかに学ぶ機会を持ち、さりげなく語り合える友人や大人と出会っていますか?
- あなたは今、自分が男か女であることをどのように思っていますか?
- あなたは、同性の親友のほかに、異性の友人や恋愛感情を抱いている人がいますか? その人と付き合うことで、学習や自己実現に燃えていますか?

私たちは、男女の関係で創造的な人間関係をつくる必要があります。

青年期にある皆さんは、子どもから大人へ移行する大切な時期であり、性や男女のあり方についても、自己確立を図らなければならない年頃ですから、性に対する理解をもっともっと深めてほしいと思います。

といったことを生徒に問いかけ、一人ひとりが自分のこととして深く真剣に考えることを目的とし、今後も学習する機会を作っていきたいと考えています。

ホームページもご覧ください

<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Kamo/>

鹿児島県始良郡蒲生町下久徳848-2

鹿児島県立蒲生高等学校

電話 0995-52-1155

FAX 0995-52-1161